

会長 阿部信一  
TEL 025-273-1572

事務局 井村健一  
新潟市北区すみれ野2-10-12  
TEL 025-259-7152

会報・編集委員会代表  
浅野亘寛  
長岡市金町2-2-17  
TEL 0258-52-3998

# 新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

## 新潟県山岳協会名誉会長、最高顧問 室賀輝男氏の逝去を悼み



### 室賀輝男新潟県山岳協会名誉会長の 逝去を悼んで

新潟県山岳協会会長 阿部 信一（新潟山岳協会会長）

当協会の名誉会長であられる室賀輝男さんのご逝去の報が、第34回北信越国体競技の最中、7月27日妙高国際アウトドアの競技会場に届きました。一瞬何も考えられず、只、呆然とその事実を認めがたく、言葉もありませんでした。あまりにも県内の山岳界、いや全国の山岳界にとっても、大切な人であり、その

指導力は計り知れない損失であります。県の山岳協会では1975年（昭和50年）から20年間会長を務められ、県内はもとより全国に新潟ありと認めさせた第一人者でなかつたかと思えます。又活躍はそれだけにとどまらず山本五十六元帥の撃墜された搭乗機の帰還運動など、また中国登山協会との兄弟締結友好行

事等、多岐にわたっています。そのおかげで私も藤井信隊長のもと、1997年（平成9年）青海省チベットメコン川源流の曲阿加吉馬II峰（チアジャジマII峰5890m）の世界初登頂、7年後2004年再度、挑戦のチャンスが与えられ岸壁吹雪のピバーク3泊4日で本峰（5930m）も世界初登頂の榮譽をあたえて頂きました。室賀さん藤井さん鈴木敏さんの力なくしてできなかった登頂といまでも感謝にたえません。又国体競技のクライミング導入にわたり、練習用ボードやら施設に積極的に協力していただき、今日のクライミング競技のベースを作っていただきました。その先見の目と行動力は真似のできないものでした。若いときの経験談も沢山聞かされていたきました。谷川岳の開拓期やら鬼が面初登等その淡々と何事もなかつたような語りぐさがいまも臉に浮かびます。我々のような出来立ての山岳会にも暖かく接していただき仲間に入れていただきました。新潟山岳会も50年を迎えようとしています。ということは50年近くお世話になったことになります。ほんとうに長い

Always Security OK



ALSO

新潟総合警備保障(株)

〒950-8633 新潟市東区小金町1-17-20  
TEL 025-274-1965 FAX 025-271-3445

間ありがとうございます。ことばでは到底言い表されない感謝でいっぱいです。協会のこと日本の登山界世界も視野に入れた室賀さん本当にお疲れ様でした。足元にも及びませんが協会の発展と県内登山界の安全登山、安全技术普及にがんばらせていただきました。どうぞ安らかに眠りください。そしてどうぞみんなの安全登山を上から笑ってみまもってください。本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございます。合掌

# 故 室賀輝男氏を偲んで

新潟県山岳協会顧問  
新潟県体育協会会長  
馬場潤一郎

長岡工業高校の先輩であり、新潟県山岳界をリードして来た室賀輝男氏が七月に逝去されました。痛惜哀悼の情を禁じ得ません。私にとりまして室賀さんは、学校の先輩であるばかりでなく人生の師であり大恩人でした。昭和三十三年長工入山岳部員として、高野 寛先生、藤井 信先生(旧姓星野)に教育として、山登りの知識やマナーを教えてもらう一方、室賀さんや先輩の皆様には山に連れていただき、山の素晴らしさや厳しさを教えられました。当時学校では登山禁止になっていた谷川岳の岩登りにもこっそり連れてってもらった、思い出が懐かしく思いだされます。又冬山登山で悪天候で何日も吹雪に閉じ込められ動けなかったことや、長工創立七十周年を記念しての、バブアニューギニアのマウン・ウエヘルム登山など、普通では経験できないことなど経験できない事等を体験させて頂き、その後の自分の人生

にどれだけプラスになったか分かりません。卒業記念に山形県蔵王にスキーに行き遭難しそうだった時もその時の教訓で助かったことなど数え上げればきりがありません。今、私達を取りまく社会の中で、社会のモラルは低下し、人と人とのつながりや、温もりが失われようとしているのではないのでしょうか。今こそ、山の仲間のように皆で力を合わせて助け合ってゆく社会を築くときと思っています。室賀さん達が山を通じ私たちに教えてくれた教訓だと思いませんが、永い間のご厚情に心より感謝を申し上げ御霊のご冥福をお祈り致します。

# 偉大なりーダーを偲んで

新潟県山岳協会参事  
日本山岳会越後支部名誉会員  
土田 幸雄(長岡ケンギンクラブ)

日本山岳会名誉会員室賀輝男さんは、筋肉が退化し治療法のない「封入体筋炎」という難病に冒され、内心は切歯扼腕の毎日だったと思います。「こういう病気だということだから仕方がないさ」と思病ひとつこぼされず、持ち前の精神力の強さで杖に9年間の闘病生活を続けてこられました。平成25年7月27日午前7時24分ご家族に看取られながら、多方面で思う存分活躍され、精一杯駆け抜けられた86年の生涯を閉じられました。

法名 諦巖院傑岳輝居士  
ぬきんでて山を愛しその徳が輝いているという室賀さんの生き様そのものです。  
葬儀は自宅で、家族だけでという遺言に沿って、告別式終了後、7月31日の新潟日報で皆様にお知らせされました。しかし、広く深い交友関係を慮り、故人の遺志で家族葬により執り行われる旨、ご遺族了解のもとに関係者に連絡させて頂きました。

室賀さんの多彩な活動は、今更申し上げるまでもありません。山岳会関係や高校同窓会関係のほか、山本元帥景仰会理事としてのご活躍、保護司としての社会貢献活動、地域ではボーイスカウト活動やヒゲさんこと高波吾輩さんと一緒に創設された谷川岳パトロール隊のこと、谷川岳等での遭難救助活動のことは「わが越後の山」にアンテロプ・パトロールというタイトルで詳述しておられます。これらのご功績で平成4年の藍綬褒章受章をはじめ環境大臣表彰、法務大臣表彰など各界から数々の表彰状、感謝状が授与されています。  
【藍綬褒章の受章おめでと  
う 本当にうれしく思います  
室賀君とは公私にわたり数十年來のお付き合いになります  
君はどんな事業を手掛けるにも地に足のついたスタ  
トをして人々とのつながりを  
大切にしながら常に前向きな  
姿勢で世界的な視野に立った  
行動をされて来ました。心か  
ら敬意を表します。このたび  
の受章は地道な山岳活動を通  
じた自然環境の保護を中心と  
して君の手柄によって受章さ  
れたと聞いております「山  
男」は緻密な計画と勇気を持  
って挑戦するという今の時代  
に求められる「人物像」そ



のものであります。その高い見識のもと、昭和五十九年山本五十六元帥生誕百年を記念して進められた山本プロジェクトは室賀君を中心として国際的な人脈によってパプアニューギニア国のブーゲンビル島から「山本長官機の翼里帰りを平成元年四月に実現致しました。」

これは祝賀会に寄せられた山本元帥景仰会駒形十吉会長の祝辞前半であります。

かつて室賀さんが大光銀行中樞部で要職を歴任され、以来終生師事された駒形十吉元頭取の室賀さん人物像、室賀さんのお人柄がくまなく網羅されていますのでお借りして紹介させて頂きました。室賀さんの、一旦事あつた時の迅速かつ適切な対応、危機管理能力の抜群さは誰しもが認めるところであります。多方面で数多くの業績を挙げられ、人に頼られ、人から褒められ、でも自慢するようない言も口にされず、人のために尽くす行動の自然さ、何事も一生懸命に、そして曲がったことの大嫌いな正直な生き方をされた偉大なリーダーでした。また、室賀さんは昭和30年代初期から「山と溪谷」「岳人」などの山岳雑誌、そ

の他各方面の出版物に山岳関係記事を多数執筆されています。日地出版からは登山地図やガイドブックも出版されました。地道な踏査や調査に基づく正確な記述と、高い見識に裏打ちされた内容は極めて好評で、お元気な頃は全国各地登山者、関係者からの照会、遭難発生時にはマスコミからの照会がしょっちゅうあつたことを仄聞していましたが、室賀さんは大変な蔵書家でもありました。膨大な蔵書のうち山岳関係書籍は藤井信顧問のお力添いと人脈でかつてのホームグラウンド谷川岳山麓にある「谷川岳山岳資料館」に、また、県史、市町村史、郷土史など貴重な歴史関係書籍は長岡市立中央図書館文書資料室に、それぞれご遺族が寄贈されましたことを追記させて頂きたいと思います。私ごとですが知遇を得ましたのは昭和19年4月長岡工業学校入学の時です。上級生で級長の襟章をしておられ、リーダーシップは天性のものなのでしよう、てきぱきとした指示をされていたことが強く印象に残っています。それ以来、公私ともにお世話になりご指導頂きました。最後になりましたが、室賀さんの

## 室賀輝男さんを偲んで

日本山岳会  
越後支部副支部長

本間 宏之(長岡ハイキンクラブ会長)

手となり足となつての文字どおりの手厚い看護に献身されてこられたご家族皆様方のお力落としはいかばかりか、そのご心情に思いを致すときお慰めの言葉もありませんが、冒頭写真の笑顔のように「有難かつた」とご家族に感謝しながらの大往生だったと思えます。

室賀さん、もうそちらでやりになる事は無いでしょう。今はただ安らかにお眠りくださいと申し上げるばかりであります。

有難うございました。

今年の3月に長岡ハイキンクラブ代表を辞任されたので、会則を「本会に若干名の名誉代表、顧問をおくことができる。」の条文を追加改正し、名誉代表に推挙されました。

7月25日午前高頭祭に当クラブ員の参加状況、翌26日の日本山岳協会会長、神崎忠男氏の高頭家墓参、高頭邸跡(河内公園)ご案内の計画を。26日午後に無事実施したことをそれぞれ奥様にご連絡、伝言をお願いしました。安堵感で一息入れました。もう二度と、あの「まあまあ一杯飲むうささ…」と言う懐かしいお声を聞くことはできなくなりなりました。これからも、

もつといっぱいご指導をお受けしたかったです。が、残念でなりません。室賀さんの多大な功績は山岳界のみならず他機関でも、誰もが認めているところでもあります。それは、室賀さんが培った情熱、先を見た確かな眼力、決断の速さ、チャレンジ精神と厳しさでなしに遂げたのではないでしょう。

私が岩登りや沢登りの技術指導を受けはじめた頃、越後水無川のモチガハナ沢廻りに参加した時のことです。八海山登山口大倉先までハイヤーで入り、しばらく歩いて宿(炭焼き小屋)をとりました。そこで、茶飲み茶碗で酒を頂いていて、私が茶碗の中を空にしたまままでいたら、

「なんだ空にして、欲しいなら欲しい。いらぬならいらぬと言え。これじゃザイルなんて結べない。」と叱られました。これは、リーダーシップ、意思の疎通、団結力、協調性等と幅広く深い意味があると思つています。私は、肝に銘じ今日まで社会生活に活かしてきました。感謝に堪えません。

ときどき大きな声で叱られたこともありました。しかし、不思議と勇氣と自信が湧き出る気持ちになりました。深い思いやりの叱り方がそうさせたのだと思えます。室賀さんは私にとって、素晴らしき指導者であつたと共に恩師の一人でもありました。いっぱい教わつたことは、私の身体の中で生涯生き続け、忘れることはないでしょう。室賀さん、永い間いっぱいのご指導本当にありがとうございます。

そこで、当クラブでは室賀名誉代表の各界に貢献された偉大な功績に報いるため、追悼集を刊行しようとする作業を始めました。誌面をお借りして、その節はご投稿のご協力をお願いいたします。



平成5年9月10日  
利尻岳杵形登山コースにて



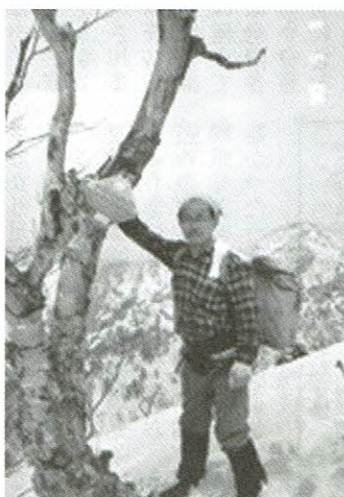
平成14年11月17日 長岡ハイキ  
ングクラブ創立50周年祝賀会



平成2年5月3日  
白砂山登山口 (野反湖)



平成10年1月8日  
県山協創立50周年記念祝賀会にて



平成2年5月3日 白砂山 JAC  
越後支部創立20周年記念県境  
縦走プレートと24年ぶりに。



平成19年2月18日  
藤井 信氏藍綬褒章授章祝賀会にて



平成2年5月3日 地蔵峠 (野反湖か  
ら白砂山間) 長岡高専山岳部員と



平成18年6月8日  
長岡工業高校同窓会にて

(写真：資料は、協会参与 土田幸雄氏より提供頂きました)

## 登山・スキー・テニスの専門店

人と地球のインターフェイス



新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134  
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

登山・ハイキング・クライミング  
テレマーク&山スキー



パーマーク  
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)  
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164  
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

# 人情家室賀輝男さんの思い出

日本山岳会  
前越後支部部長

山崎 幸和(越後吉田山岳会)

昭和63年9月藤島玄さんが逝去された時、佐藤一栄さんは「巨星墜つ」と表現されたが、平成25年7月27日の室賀輝男さんの逝去も全く同じ言葉でしか表現できない位思いがした。室賀さんは新潟県山岳協会会長を二度に亘り22年務められ、玄さんの「越後岳人の心はひとつ」を更に深く広く啓蒙され、県内岳界のまとまりと発展に尽力されて、県山協の最高顧問であられた。

最初の出会いは私が21歳の昭和37年7月25日の弥彦山。再会は三日後の28日、30日の第17回国体県予選・頸城三山縦走であった。その後も第19回新潟国体の役員強化合宿や国体出場、県境全踏査縦走などで度々お会いする。

昭和44年県山岳協会会長に就任された時、私も所属の越後吉田山岳会から協会の理事となり、ご指導を頂くこととなる。「堂々と山に行けるよう仕事は頑張れ」と同じ金融マンとしての自己体験からくる

支部の歴史」資料作成などの担当は、総て室賀さんの指示によるものだった。

中でも平成15年7月除幕された松明登山祭50回記念の「弥彦山頂の展望盤」は、展望図作成者として望外の喜びであって、この提案は望月さん。だが、発案は室賀さんで二人の共同作戦、とその事実を知ったのが建立から既に5年経過した20年だった。改めて室賀さんの温情、人情味に感謝申し上げた。これも室賀・望月お二人の人徳の賜物で、昔から二人のコンビは有名で私らはMMラインと称しその友情をうらやましく思っていた。

「室賀会長がガツカリしていた」と聞き非常に心が痛んだ。一方、日本山岳会(JAC)で室賀さんは昭和35年から越後支部役員となり、本部評議員、第5代支部長、支部名誉会員。そして日本岳人の最高の誉れとされている名誉会員となられた。

私も支部役員を44年から仰せつかっていて、支部でも従前以上のご配慮ご指導をいただいた。弥彦山松明登山祭40回や高頭祭50回の記念誌の編集発行、JAC百周年記念『山岳・第99年』での「越後

講演。かつて室賀さんは、藤島玄さんと長岡市深沢の高頭邸跡に「山岳資料館」建設を計って奔走され、実現直前に難題が出現して頓挫した経緯があり、その思いはまだ持ち続けられていた。最後の高頭祭参加であった。

県外から高頭祭参加者が近年続いており、室賀さんとの面会が毎回都合できずにいた。第55回はマナスル初登頂隊員だった松田雄一名誉会員。是非に、と強く望まれ、山本五十六記念会館で車いす面会が実現。お二人は十数年振りに旧交を暖められた。24年7月26日が室賀さんとお会いした最後になった。

21年春、私は平田大六さんの後任として支部長を拝命。翌22年創刊号の「越後支部報」に「越後支部を新鮮な企画で・・・活力溢れた会員を募り支部の歴史と伝統を守る体制作り」に山崎新支部長と共に知恵と汗を流すことを誓いたい。室賀さんの寄稿文に目頭が熱くなった。県山岳協会長時代にわがままを通し役員を辞した不義理にもかかわらず、その後30年余も多大なご厚情を賜ってきた。人情家室賀さんは他の多くの方々に同様であったに違いない。

だからこそ、数々の輝かしい山歴や有言実行も相まって大勢の方からも尊敬され、しかも抜群の指導力と統率力で県内岳界をまとめられ、その発展に尽力されてこられた。日本山岳会はこの功績を称賛し、23年12月3日東京品川プリンスホテルの年次晩餐会で名誉会員に推薦発表された。翌日、代理受領した金縁名誉会員章を桐生恒治さんと入院中の室賀さんにお届けにあがると「俺みたいな者が・・・」と恐縮され、私の手をしっかりと握られた。そして450名近い出席者の会場で室賀新名誉会員の代理で六名での鏡開きでは、皇太子殿下と一緒という正夢の栄に浴することができた当日の報告とお礼を申し上げると「やつと奥さん孝行ができて良かったな」と11月の褒章受章と併せ喜んで下さった。せめて万分の一の恩返しどころか、最後には生涯忘れ得ぬ最高の思い出を頂いたのである。

も同行、下山後に望月さん、本間宏之さんたち数人と伝之助小屋で歓談など。この頃から足の具合が芳しくないようであった。

17年の第48回高頭祭はストック姿での高頭仁兵衛翁の



合掌。

## 室賀輝男大先輩を偲ぶ

新潟県山岳協会参事  
日本山岳会越後支部名誉会長

平田 大六(関川村山の会会長)

室賀輝男さんが本年(2013)7月27日ご逝去されました。登山界の大先輩がお亡くなりになられたことは、大変残念なことでありまして、心からお悔やみ申し上げます。室賀さんは1928年生れで、若いころから登山をされ、長岡ハイキングクラブを主宰し、主に谷川岳連峰など上越国境の山岳をホームグラウンドにされていたとうけたまわっております。室賀さんは、県内外の岳人にとっては、新潟県山岳協会(以下「新山協」)の「顔」でした。その理由の一つは、永年新山協の会長をつとめられたことです。一回目は1969年からの2年間、二回目は1975年から95年までの20年間です。藤島玄(源太郎)さんが新山協の草創期に十数年会長をされた後「今後は上中下越と順にどなたかを会長にお願いし、後にしかるべき人に長く会長を」と、私におっしゃられたことがあります。室賀さんは、まさに、その「しかるべき人」

だったのです。もう一つの理由は、室賀さんが二十数年間、新山協の会長をつとめられた功績です。室賀さんの会長時代に、現在の新山協のほとんどの方向性が確立され、またいろいろな試みが実行されてきたことです。文献(註)を追ってみます。(一)内は事業行事実施の初回年です。山岳遭難救助講習会(70)、新山協ニュース発行(75)、新年会(76)、婦人部創設(78)、中国泰山登山(79)、韓国品元山岳会姉妹締結(81)、自然保護研修会(85)、中国長白山登頂(87)、中高年登山教室(91)、中国青海省登山協会友好協定締結(92)、などすべてが、室賀さんの強いリーダーシップと、旺盛な未知への深い憧憬のあらわれでした。

室賀さんの夢は、新山協以外のところでも開いています。長岡市出身の軍将山本五十六元帥の搭乗機が太平洋の南の島に落下しているのをつきとめ、その墜落機の部品

を故郷に持ちかえったのも室賀さんの熱意でした。室賀さんに私も薫陶をいただきました。1988年、中国大興安嶺日中友好合同踏査先遣隊長をおおせつかりました。89年には、数十人の高校生を連れてゆくように、という室賀さんの命令でした。新山協を中心に、大きな花を開かせてくださいましたのは、室賀さんの人間味あふれるお人柄だったと思います。永年のご指導に感謝しご冥福をお祈りいたします。

## 室賀輝男新潟県山岳協会名誉会長、最高顧問のご逝去を悼み

新潟県山岳協会顧問  
日本山岳会越後支部部長

橋本 正巳(高田ハイキングクラブ)

2013年7月27日、空には厚い雲が立ちこめ、梅雨空特有のどんよりとした空模様

7月25日の高頭祭、そして翌日の26日は日山協会長、神崎忠男氏と八木原昭明副会長を伴い、藤井先輩宅へご案内した後、長岡の高頭仁平衛翁の墓前にもご案内し、ホッとしていた矢先、土田先輩から慌ただしく1本の電話が入りました。それは室賀輝男日本山岳会名誉会長、そして新潟県山岳協会名誉会長、最高顧問の御逝去の知らせでした。正に晴天の霹靂、痛恨の極みの日を迎えた次第です。新潟県内は勿論の事、国内山岳界の重鎮として、比類なき行動

# 『室賀さんお世話になりました』

新潟県山岳協会参与 山田 智子(越後山岳会会長)

ありきたりですが、妙高で行われていた北信越国体の会場で、訃報を知らされた時に、真先に思ったお礼の言葉でした。初めてお会いさせてもらってから三十五年、人生の一生からすればまだまだこれから的人生半ばです。元氣なお姿しか浮かんできません。もう一度お元氣な室賀さんにお会いしたかったです。

ご病氣のことを聞かされた時は、本当に驚き、さぞ無念であろうと、そのお気持ちを感じることができませんでした。

室賀さんとの出会いは、ある日、あの長岡弁の訛でいただいた電話でした。「こんなことをやっているがんだらも、遊びに来てみなねかね」と、国体県予選会へのお誘いをしていただきました。素直に会場へ行く約束をしましたが、まさかそれがその後、国体の色んなことや、県山協行事に係るきっかけになるうとは思っていませんでした。

後日、室賀さんがおっしゃるには、旦那さんが亡くなっ

てからも、おなじ筆跡で書類が届くので、「越後の事務局を手伝っていた」と思われたとのこと。室賀さんに一本やられてしまったのか、その後、県山協行事には本当によく参加させてもらいました。

私にできる範囲というか、お手伝いできることで一生懸命頑張っていたつもりでしたが、何時も笑顔で話をされるので、胸中を察することができませんでしたが、歯がゆい思いをされていたのではないのでしょうか。色んなことが走馬灯のように浮かんできますが、楽しかった思い出の中に、姉妹山岳会を結んでいる韓国の晶元山岳会との親善登山があります。第三回目の親善登山で、韓国では二番目に高い山、智異山(チリ山)1,915メートルに登りました。三月初めの積雪と青氷の厳しい登山でした。登山前にスパッツを付けた時のこと。韓国勢は冬装備が不足しているんですよと言いながら、皆さんニコニコ。目線は室賀さんの左右色違いとい

か、片々どうしのスパッツへ。付け終ると『ベリーグッド』と何くわぬ顔の室賀さん。韓国勢も、ご一緒されていた今は亡き五十嵐篤雄さんはゴールデスパッドをくゆらせながら、声を出して笑った。その時のことを思い出すと、今でも一人笑いをしてしまう懐かしい思い出です。又、第六回目の漢拵山への折、金浦空港で韓国勢と合流して、済州島へ飛んだのですが、何か室賀さんは、行くところがあるからと言って、ソウルに残りました。私達がソウルへ戻るまでの二泊三日、一人どこを旅してこられたのか、皆さんもやんや言ったのですが、室賀さんは語らずとうとう分らず仕舞いでした。その間、亡き望月 力さんが、何回も『どうしてんだらう?』と心配されていたことも思い出されます。室賀さんのことを思い出していると、先に逝かれた先輩諸氏のことも浮かんできます。良い巡り合いをさせていただいたことに感謝あるのみです。

室賀さん初め、千の風になられた大勢の方々が、何時までも私達を見守っていて下さることを感じていたいと思います。

合掌

## 平成25年第1回理事会議事概要

・日時 平成25年9月25日(水) 午後7時~同9時まで  
 ・場所 長岡中央公民館406号室  
 ・出席者 25名

7月に御逝去された名誉会長室賀輝男氏の御冥福をお祈りし黙祷を捧げ、阿部会長の挨拶に続き議事に入った。

### 1. 議題

- (1) 第34回北信越国民体育大会山岳競技決算報告について  
井村事務局長から配付資料に基づいて「収入は、県体育協会助成金1,779,000円、各県負担金200,000円、本会負担金70,146円、日山協助成金150,000円の合計2,199,146円であった。支出は、報償費1,021,000円、旅費581,087円、消耗品費298,151円、会場等借上料284,940円、通信運搬費13,968円の合計2,199,146円であった。なお、これに関連し例年実施されている国体多数回出場者表彰があり、本会計から22,848円を支出した。この支出を含めた本会負担額は92,994円であった。」との説明がなされ、承認された。
- (2) 新潟大学探検部の加盟申請について  
井村事務局長から「新潟大学探検部から加盟申請があった。登山、フリークライミング、ラフティング等幅広く活動。部員は約80名程。」と説明があり、加盟が承認された。

### 2. 報告事項

- (1) 各委員会報告
  - ・指導技術委員会(嶋原委員長)  
6月15~16日に岩登り講習会・研修会を開催。15日の初心者講習は2名、16日の研修は研修者19名、講師、委員10名の29名の参加で実施した。日山協指導員総会でハイキングリーダー資格制度を作る方向で検討中との話あり。今の指導員資格の下との位置づけ。  
26年2月22~23日の冬山講習会を中越地区で開催したい。適当な宿泊場所の情報を知らせて欲しい。会場が見つからない場合は他地域で実施する。
  - ・遭難対策委員会(井委員長)



25年第1回理事会

6月22～23日国上山にて、道迷いを主として安全登山研修会講習会を開催した。スタッフ10名を含め35名の参加であった。11月16日(土)に吉田消防署において安全登山研修会講習会を開催する。午前は救急法、午後はロープワークをしたいと思っている。近々に委員会で決定する。

・自然保護委員会(伊藤委員長)

5月18日～19日に第56回自然保護研修会を雨飾山麓白池の森で開催した。18日は猪俣定次氏の「マイコミ平周辺の自然と古道」、19日は戸倉山登山を実施。参加者は34名。

9月14日～16日、日山協山岳自然保護の集い中央大会が埼玉県で開催され、県山協から4名が参加。各県岳連の自然保護活動状況の報告や利用者負担(入山料)、資源・自然疲弊、自然保護指導員の役割について意見交換が行われた。

11月17日に長岡市のアオーレ長岡において「山の自然保護、遭難防止の講演会と写真展」を開催する。未組織登山者へも広報する。写真展への出品にも協力願いたい。

・競技委員会(稲田副会長)

4月7日日山協競技委員会総会に出席、4月28日新潟カップ大会開催。JOCジュニアと北信越国体の選手を選出した。5月11日北信越5県代表者会議開催。7月27～28日に妙高市において、第34回北信越国体山岳競技会を開催した。多くの方々から協力いただき、滞りなく終了できた。感謝申し上げる。

9月から土日は国体派遣選手の強化に取り組んでいる。コンディションを調整して本番に臨みたい。

・会報編集委員会(浅野委員長)

遅ればせながら5月号は発送した。遅れを取り戻していきたい。片桐参与から故室賀名誉会長の追悼号のようなことは考えているかとの質問あり。現在1名に依頼中とのことであったが、もう少し多くの方に追悼文を依頼して会報に掲載することとした。

・ジュニア委員会(稲田副会長)

4月28日新潟カップで、JOCジュニアカップ派遣選手を選抜、8月10～11日JOCジュニアカップに日山協推薦1名、県選抜5名が参加した。

(2) その他

・山田参与から「韓国晶元山岳会と姉妹協定締結され、昭和58年6月婦人部9名が雪岳山交流登山をして今年が30年目にあたり、晶元山岳会へ交流の意向を打診したところ、韓国へ来てくれるのは歓迎するが、新潟へ出かけることは高齢化が進み難しくなったとのことであった。今年は時期的に無理のため、来年度には韓国登山を企画したいと思っている」との提案があった。海外登山委員会で協議してもらおうこととした。

・長野県山岳協会の行事予定によれば北信越5県連絡会議が長野県で12月7～8日で予定されている。

・新潟県体育協会から、賛助会員加入の依頼がある。個人会員年額1口5千円、法人会員1口1万円。加入意志のある方は、理事長まで連絡願いたい。

・「県立アリーナの建設を考えるシンポジウム」が11月10日に開催される。

県山協には25名の参加が求められている。新潟市内の各理事の山岳会から5名程度参加願いたい。

3. その他

(1) 協会規約の整備

現規約では、参与の役割や事務局の規定が明確でないことから、日山協の定款を参考にした改正試案を示したが、役員の見解を求めて、会長、理事長、事務局長でそれを反映させた案を作成して、理事会に諮ることとした。

(2) 個人会員制度の導入について

10年前に議論し見送りとした経緯がある。時代も変わっており、導入した場合のメリット、デメリットを整理し、次回以降で協議をしていくこととした。 以上

## 賛助会員入会 ご入金のお礼

次の皆様から、ご入会、ご入金を頂きましたので、ご報告させていただきます。

\*7月29日～9月25日現在のご入会、ご入金状況です。

矢澤建三(悠峯山の会) 清倉清一(新発田山岳会)

片桐一夫(長岡ハイキングクラブ) 成海 修(峡彩山岳会)

(敬称略、順不同)

新潟県山岳協会 会長・阿部 信一

理事長・遠藤 俊一 総務委員長・宮崎 幸司

## 編 集 後 記

▲室賀名誉会長逝去の報が入ったのは北信越大会山岳部門の行われている妙高市であった。連絡を受けた井村事務局長から阿部会長へ、居合わせた役員全員はしばらく言葉もなかった。ご体調はあまり芳しくないとはお聞きしていたが、まだまだご指導をいただけたらと思っていたのだが。昭和30年代後半～40年代前半あたりが私らの年代が県山協の各講習会に参加し始めたころだった。室賀さんを先頭とした諸先輩らが講師となった講習会は、山の知識に飢えていた私たちには、刺激的で楽しかった。冬山技術講習会なども越後の山岳の雪質や特異な積雪状況に即応できる生活技術などを教わった。なかでも緊急時の悪天の状況での「焚火」の仕方など、興味津々で参考になる講習がほとんどだった。その頃の沢登りや岩登りの講習での懸垂下降は「肩がらみ」だった事が懐かしい。私が会報・編集委員会に就任した

時には丁寧な激励のハガキを頂き、その後も折りあるごとに激励、電話での提言を頂いたこともあり、温かな内容のハガキや電話には心服すべき事が多く、また元気づけられました。ご進言、ご提言のほとんどを実現出来ていない会報・編集の実情を恥じながらですが任期を全うしたいと思います。今後は、どうぞ瑞雲たなびく浄土から県山協の向後を叱咤、激励して下さいようお願いいたします。合掌。 編集：浅野

  
魚沼の里  
www.uonuma-no-sato.co.jp

  
魚沼の酒  
www.hakkaisan.co.jp